

科目番号	52126	分類	生殖健康学	履修者	高度実践助産コース	学年	1		
科目名	EBPM 探究論 (エビデンスに基づいた助産実践) (Evidence-Based Practice in Midwifery)						1	配当セスター	
							前期		
担当者	○朝澤 恭子, 片岡弥恵子	区分	助産師プログラム	必修	単位	1	時間数	15	
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連			
【概要】 エビデンスに基づいたケアが実践できるように Evidence-based practice in Midwifery の基本的知識を習得し、周産期における女性とその家族の健康に関する問題を解決するための方法について、文献クリティークを通して理解を深める。						1. 自律して自然分娩の支援ができる能力			
【目標】 1. EBPM の意義を理解する。 2. 疑問、問題の定式化ができる。 3. 文献検索ができる。 4. 文献の批判的吟味ができる。 5. 疑問に対するエビデンスを考察することができる。						2. 院内・院外助産システムを担うことができる能力			
						3. 女性の生涯にわたる健康を支援できる能力			
						4. 周産期の救急時に対応できる能力			
						5. 他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力			
						○ 6. 研究・開発能力			
						○ 7. 倫理的意思決定能力			
授 業 計 画									
回	内 容							担当教員	
1回	Evidence Based Practice の展開 (講義)							片岡	
2回	周産期女性の問題・疑問の定式化 (グループワーク)								
3回	文献の批判的吟味・前半 (グループワーク)								
4回	文献の批判的吟味・後半 (グループワーク)								
5回	エビデンスの実践適用 (グループワーク・発表)								
6回	自己の関心のある周産期女性の問題・疑問の定式化							朝澤	
7回	文献検索と文献の批判的吟味								
8回	見出した Evidence のプレゼンテーション								
事前・事後学習	事前学習：参考図書の該当部分を概観する。 事後学習：配布資料の復習および自己課題の加筆修正。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に組み合わせること。								
評価の方法	授業への参加および学習状況(20%)、プレゼンテーション・ディスカッション(80%) プレゼンおよび成果物に関するフィードバックは適宜行う。								
参考図書・資料等	Paul Glasziou et al. (2004) .EBM 楽しい演習帳. 金芳堂. 名郷直樹(2009). ステップアップ EBM 実践ワークブック. 南江堂 福原 俊一 (2013) . 臨床研究の道標—7つのステップで学ぶ研究デザイン. 特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構								
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。								